

事業実施報告

開催日	令和4年10月8日（土）～10月9日（日）	開催時間	10月8日（土）9:30～10月9日（日）13:30
事業名	テンパーク冒険子ども食堂		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	21人
参加学校名等	連携機関から推薦された子ども食堂を利用している小学3年生～中学生		
関係機関名	認定特定非営利活動法人インクルいわて 特定非営利活動法人いなほ		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

～採って、作って、いわての秋を食べ尽くそう！～をテーマに1泊2日の中で、バターづくり、乳製品を使った調理実習、マイスプーンづくり、釣り・魚捌き体験という食育プログラムを構成した。

酪農王国岩手ならではの食材である乳製品を取り上げ、小岩井農場で生産現場を見学し、ノンホモ牛乳を使ったバターづくりを体験した。講話では、成長期に大切な睡眠時間と骨の成長に欠かせないカルシウムについて学んだ。その後「乳製品をつかったあったかメニュー」として、ホワイトシチュー、ピザづくりを指導いただき、野外炊事をした。

また、近隣の養魚場で釣り体験し、一人一人がはらわたを取り、捌いて食べる活動を通じて、自分たちは他の「命をいただいている」ということを実感できるよう企図した。

〔成果〕

- 子ども食堂を運営する2法人の協力を得て、周知と募集を担って頂き、支援を必要とする家庭に周知することができた。また、連携施設職員に帯同していただいたことで、当施設を初めて利用する参加者が、安心して参加することができた。

- 事業後のアンケートで、事業全体に関する満足度について参加者から「満足」79%「やや満足」21%肯定的評価100%を得られた。

- リピート参加した児童が19名中8名いた。そして本年度のアンケートでは、「今後【テンパーク冒険子ども食堂】があれば参加したいですか」の問いに「参加したい」100%の回答を得た。その理由として「活動内容がとても楽しい。魚の捌き方を初めてでもわかりやすく教えてくれて、ボランティアさんも優しく教えてくれて楽しく活動できた」「普段しない体験をいろんな人とできるし楽しかったから」といった声が寄せられた。

- 「魚は食べられない。釣るだけ」と言っていた子が、釣った魚が弱っていく姿を見て「もう一生魚食べられないかも」となったが「自分で釣った魚、食べてみようかな」と変化し調理後は「おいしい！」と食べる事ができたという変容をボランティアが看取ってくれた。ボランティアが手厚く見守り、励まし、支援したからこそ、多くの体験を安全に行うことができた。

〔課題〕

- 幅広い対象年齢となったため、見学の説明、栄養講話の難易度をすべての参加者に合わせる事が難しく、年齢によって満足度が分かれた。高学年以上の満足度は高いが、中学年には難しかった。冒険子ども食堂として冒険要素の高い体験と活用しやすい内容とのバランスを検討する必要がある。

- 締め切りのタイミングに申し込むことが難しい家庭が多く、申し込みやすい条件を工夫して整える必要がある。

- 配慮が必要な児童が多く、人手が足りない場面が生じた。職員が近くにいる時間を作らない体制づくりとボランティアが配慮の必要な児童への接し方について学ぶ機会を設ける必要がある。

状況写真



「小岩井農場バターづくり体験」



「マイスプーンづくり」



「ホワイトシチューづくり」



「乳製品を使ったピザづくり」



「養魚場で釣り体験」



「自分で捌いた魚は最高！」

注1) フォントはMS明朝、12Pで統一すること。

注2) 状況写真は4～6枚掲載し、コメントを付すこと。